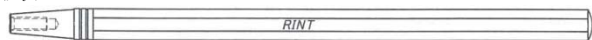


ミラーハンドル RINT

*【形状・構造及び原理等】

〔形状・構造等〕

1) 形状



2) ねじ仕様

ユニファイねじ

3) 材質・組成

真鍮

*【使用目的又は効果】

本品は、口腔内診査又は舌・粘膜等の圧排を目的とする、歯科用器具である。

*【使用方法等】

- 1) 本品は未滅菌品につき、使用に先立って滅菌を施す。
- 2) ミラーヘッドを装着し、口腔内診査又は圧排を行う。

**【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

- 1) 患者ごとに【保守・点検に係る事項】に記載する方法及び条件で、洗浄等の処理を行った上で滅菌すること。
- 2) 患者ごとに診療・治療後、速やかにミラーとミラーハンドルを分離すること。
- 3) 本製品を用いた処置により発疹、皮膚炎などの過敏症状又はアレルギー症状が現れた患者には、使用を中止し医師の診断を受けさせること。
- 4) 破折等による誤飲のおそれがあるので、以下は行わないこと。
 - ①本製品に対する曲げ・切削・加圧等
 - ②粗雑な扱い(キズをつける・落下させる・強い衝撃を与える等)
- 5) 薬液等が付着した場合、腐食するおそれがあるので速やかに清拭すること。

**【保管方法及び有効期間等】

〈保管の条件〉

・保管の条件

- 1) 高温・多湿を避け、塵やほこりのない清潔な場所に保管すること。
- 2) 金属電位差を要因としたガルバニック腐食を防ぐ為、材質の異なる器具と一緒に保管しないこと。
- 3) 「もらいさび」を防ぐ為、以下のことに注意すること。
 - ①錆びている器具と一緒に保管しない。
 - ②化学薬品と一緒に保管しない。
 - ③滅菌器、保管庫等の内部に発生する錆びに注意する。
- 4) 変形の原因となるので、トレー・コンテナによる移動及び保管は丁寧に行うこと。なお、トレーやコンテナを使用する際は重い器具を載せないこと。

**【保守・点検に係る事項】

〈使用者による保守点検事項(日常点検)〉

- 1) 〈洗浄・滅菌の方法〉で指定する方法及び条件で、患者ごとに、洗浄等の処理を行った上で滅菌すること。
- 2) 使用前に汚れ、破損、ヒビ、キズ又は腐食等がないか点検すること。

〈洗浄・滅菌の方法〉

- 1) 血液・体液・組織片、薬品等により汚染した器具は、汚染物質が乾いて固着することを防ぐ為に、使用後直ちに以下の手順で洗浄・滅菌を行うこと。汚染物質を付着したままにしておくと、除去しにくくなることもある。
 - ①患者ごとに診療・治療後、速やかにミラーとミラーハンドルを分離する
 - ②分離後、速やかに医療用防錆洗浄剤(例えば「ゼットワン eco(別売)」)中へ浸漬する。付着した汚れが乾燥してしまった場合は、浸漬時間を洗浄剤の適応範囲内で伸ばし、除去する。
 - ③本品に付着した洗浄液を流水により洗い落とす。
 - ④本品を乾燥させる。(水分が残っていると錆や滅菌効果低下の原因となる恐れがある)

⑤オートクレーブ滅菌器を用いて滅菌する。

推奨滅菌条件:121℃ 20分
:134℃ 5分

- 2) 他の器具との接触によるキズを防ぐ為、滅菌バック・ケース等に入れることを推奨する。
- 3) オートクレーブ滅菌器は使用状況・期間等により、庫内に汚れが付着している場合がある。汚れが付着したままオートクレーブ滅菌を行った場合、器具へシミが付着する恐れがある。庫内が汚れた状態にならないよう、滅菌器の添付文書又は、取扱い説明書に従い、定期的な清掃を奨励する。

〈洗浄・滅菌上の注意〉

- 1) 次の薬剤は、金属腐食を起こす恐れがあるので、使用しないこと。
(次亜塩素酸ナトリウム、ホルマリン、ポビドンヨード、フェノール、グルコン酸クロルヘキシジン、塩化ベンゼトニウム、塩化ベンザルコニウム、過酢酸、電解酸性水)
※素材への影響度が添付文書等によって確認できない場合は、薬剤の製造販売元に確認することを推奨する。
- 2) アルコール等の薬剤を用いるオートクレーブ滅菌は、金属を腐食させるので行わないこと。
- 3) ブラズマ滅菌は、素材に影響を及ぼすので行わないこと。
- 4) 洗浄の際は以下に留意すること。
 - ①家庭用洗剤は、デンプン等食品汚れを落とすために開発されたものであり、血液中含まれるタンパク質に対する洗浄効果は期待できない。また、着色料や香料が含まれる為、それらの残存物が金属を腐食させることがあるので使用しないこと。洗浄には、医療用防錆洗浄剤を使用すること。
 - ②腐食(錆び)等の原因となるので、磨き粉や金属ウール・金ブラシを使用しないこと。
- 5) オートクレーブ滅菌器を取り扱う際は以下に留意すること。
 - ①出来るだけ精製水(純水)を使用する。水道水を使用すると、塩素イオンの影響で器具が腐食することがある。
 - ②乾燥温度及び庫内温度に注意する。
 - ③ヒーター近傍に本品を置かない。(表示温度より高くなる場合がある)
 - ④庫内が高温となる恐れがある場合には、予熱乾燥を行う。高温の乾燥は、器具が変質又は変色、劣化、破損等することがある。
 - ⑤洗浄やすすぎが完全でない状態、又はオートクレーブ滅菌器のチャンバー内に水垢が付着している状態のままオートクレーブ滅菌を行うと、器具に焼き付きが発生する恐れがある。
- 6) 洗浄・滅菌後は、本品に付着した水分を除去し、十分に乾燥させてから保管すること。水分が付着したまま長時間放置すると、錆び、シミ等の原因となることがある。

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者 :株式会社 インプラテックス
ホームページ: <http://www.itx.co.jp>
TEL:03-5850-8555 FAX:03-5850-8505